



アリスは野菜が大すきな女の子。

このおはなしは、青空が広がるある日 アリスが散歩にでかけた時のできごとです。

「いそがなきゃ いそがなきゃ！ パーティーに間に合わないよ～」

不思議なウサギが、カバンから何かをポロポロと落としながら
走っていくのを見えました。

「ウサギさん、落としものよー！」

ウサギはとても、いそいでいるようで、どんどん畑の中へと走っていきます。

アリスが落としものを拾い集めてみると、

それはたくさんの封筒と地図でした。

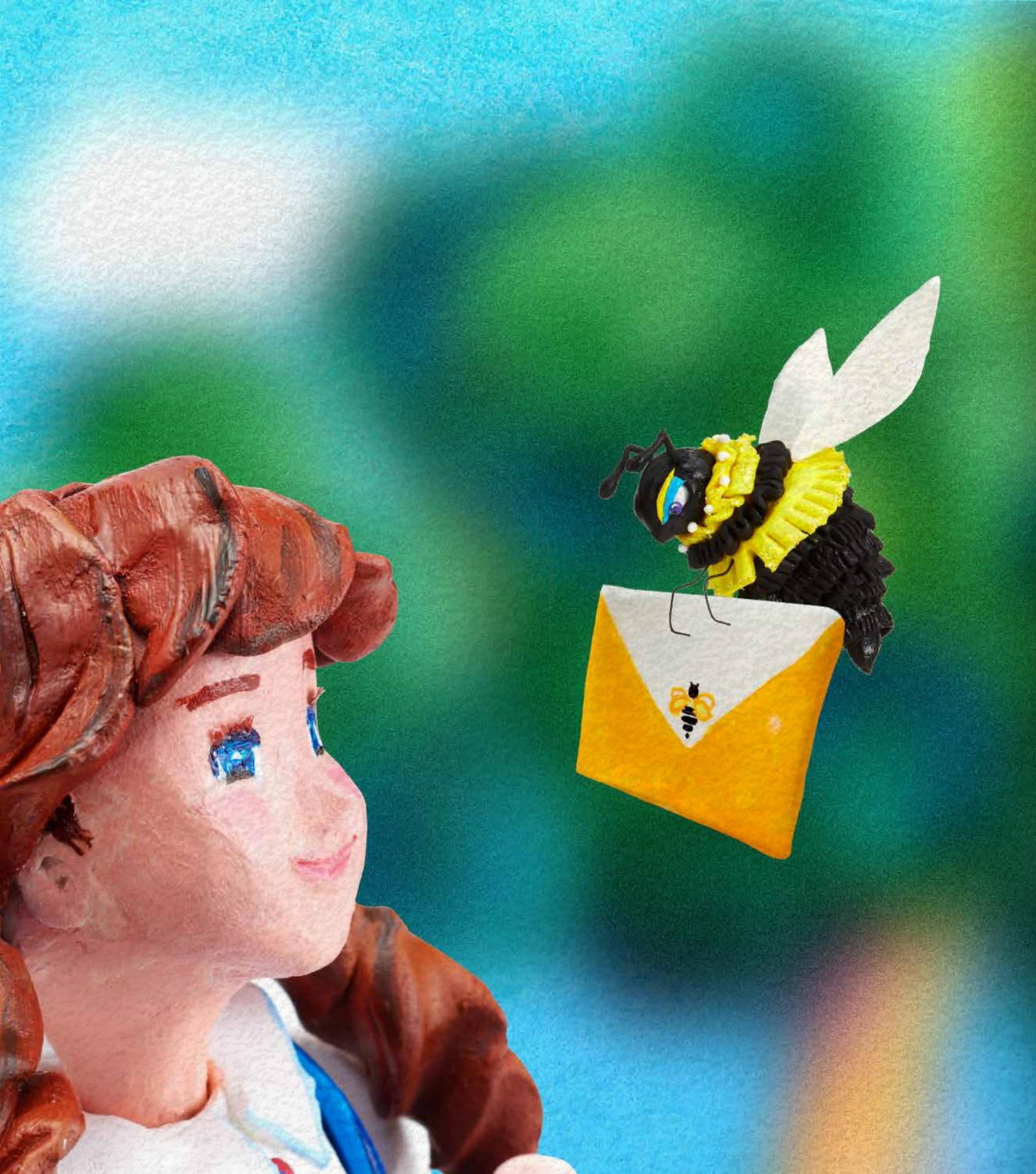
手紙にはいろいろな生きものたちの絵がかいてあります。

「これはきっと大切な手紙にちがいないわ！

わたしがかわりにとどけてあげなくちゃ！」

アリスもウサギのあとを追って畑にむかいました。





畑につくと、ハチが飛んできて こう言いました。

 「ありがとう。この手紙はわたしたちへの招待状ね」

 「招待状？」

 「今年も野菜の収穫をお祝いするパーティーがあるの。
わたしたちは野菜と仲良しだから、およばれするのよ」

 「ハチさんは虫なのに野菜と友だちなのか？」

 「わたしたちハチは、野菜が実をつくるための
 受粉をお手伝いしているの」

うれしそうに言い、ブーンと仲間のところへ飛んでいきました。

ハチを見送るアリスの手には、まだたくさんの招待状があります。

 「つぎの招待状にはミミズさんの絵がかいてあるけど、
土の中にいるミミズさんには どうやってとどければいいかしら」

すると、木の上からヘンテコなわらい声が聞こえてきました。

アリスが見上げると、とても大きな口でわらう猫ねこがいました。

 「ニシシシシ、なにかお困りかな おじょうさん？」

 「あなたはだあれ？」

 「オレはチェシャ猫ねこさ」

 「わたしはアリス。この招待状しょうたいじょうをミミズさんにとどけたんだけど、
いったいどこに行けばいいかしら？」

 「そんなことは簡単かんたんさ。そこに小さなすべり台の入り口があるじゃないか」

 「でもこんな小さな入り口では、わたしは入れないわ」

 「大丈夫だいじょうぶさ、その魔法まほうの紫むらさきの花をさわってごらん。ニシシシシ」

アリスが花にふれると、キラキラした花の粉こながまい上がり、
すると、急に鼻がムズムズしてきて……。

 「ハックション!!」





 「きゃ————！」

アリスのからだはどんどん小さくなって、
ビューッとすべり台をすべり、土の中^{とうちやく}に到着しました。

目の前^{めいろ}には迷路のような小道があり、
あかりの灯^{とも}ったドアが、たくさん並^{なら}んでいます。

 「このドアの向こうには だれが住んでいるのかしら、
みんな この招待状^{しょうたいじょう}を待っているのかしら？」

 「そのとおり！土の中には ダンゴムシやクマムシ、
たくさんの野菜^{やさい}の友だちが住んでいるからな。
それは やつらの家のドアなのさ。ニシシシ」

アリスは ひとつひとつのドアをノックして、
虫^{しょうたいじょう}たちに招待状を配りました。





アリスが歩いて行くと不思議なギャラリーがありました。

「それは ぼくらのウンチアートや！カッコええやろ？」
陽気なミミズの兄弟が登場しました。

「アートのテーマは、『 だんりゅうこうぞう 団粒構造で世界ツアー！』
ぼくらの作りだした おだんごを使った世界ツアーというこっちゃ」
兄さんミミズが教えてくれました。

「ミミズさんも野菜と友だちなの？」
アリスが聞くと……。

「もちろんや！ぼくたちのウンチには栄養素が入るとんねん。
チッ素・カリウム・カルシウム・マグネシウム・リン酸さんっていう栄養素や！
なあ～？ねみみにミミズやろ？」
弟ミミズのダジャレも飛び出しました。

「ぼくら、土の中のアイドル……
ちやうちやう！アーティストなんや！」

「ゆかいなミミズさんね。すてきなアートを見せてくれてありがとう」

アリスはミミズの兄弟に招待状をわたしました。



 「つぎの招待状の しょうたいじょう この絵はいったい何かしら？
おもしろい形だわ」と考えていると・・・。

 「アリス、耳をすましてごらん。ニシシシ」
あのチェシャ猫 ねこ の声が聞こえてきました。
すると土の向こうから カタカタ カタカタと、
何かが近づいてきます！

カタカタ カタカタ・・・。

しょうたい
音の正体は、どんぐりトロッコでした。
アリスを むかえに来てくれたのです。

アリスを乗せたトロッコが発車すると、
くらやみ
暗闇にキラキラと光る 美しい世界が広がっていました。

 「ここはどこ？まるで宇宙 うちゅう に来みたいだわ」
うっとり み とあたりを見わたしていると、

 「ワレワレはキンコンキン！
小さな生きもの、びせいぶつ 微生物のナカマだよ！」

きんこんきん
声のぬしは菌根菌でした。





「ワレワレ^{きんこんきん やさい}菌根菌は野菜と友だちの^{きん}菌 DEAL!

^{やさい}野菜とそれぞれが^{ひつよう えいよう}必要な栄養を分け合い、

助け合いながら生きているの DEAL!



「ソウ! ワレワレは土の中で、^{やさい}野菜からエネルギーを分けてもらうお礼に、

^{やさい}野菜に必要な^{えいよう}栄養を作ったり、

^{やさい}野菜が病気に強くなるためのお手伝いもしているの DEAL!



「え、そうだったの? ^{やさい こころづよ}野菜の心強い味方なのね!」

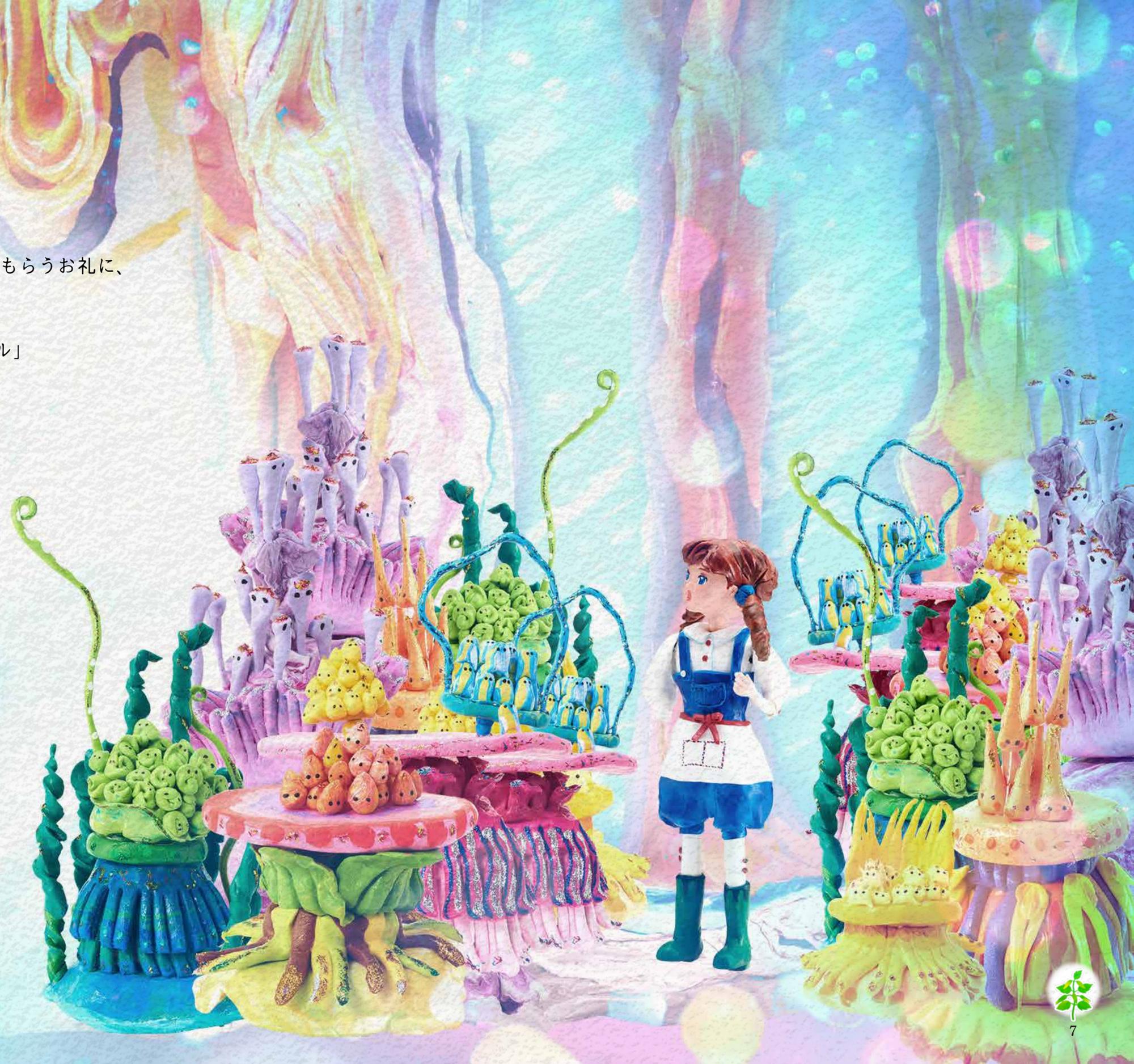


「そうだよね? ミミズくん?」^{きんこんきん よ}菌根菌が呼びかけると



「ぼくらのことを呼んだかい?」

さきほどのミミズの^{きょうだい}兄弟が、ひょっこり顔を出して言いました。





「土の中のことだけじゃないんや、
ぼくたちには土の中に炭素たんそ たくわを蓄えておくチカラもあると考えられていて、
ぼくたちのチカラは、温暖化対策おんだんかたいさくでも注目されているんや」



ワレワレは、おくねん4億年前からイルと
言われているノダ。



ぼくらは、
土の外の環境かんきょうにも影響えいきょうしてるんや。



ご存じかな？

1グラムの土の中にも
微生物びせいぶつのナカマは10億以上もいると
言われているノダ。



野菜やさいと助け合っ
ているのでアル。



「土の外の世界にも影響力えいきょうよくがあるなんて、
すごく不思議ふしぎだわ！見えないところで、
地球の未来みらいにも関わかかっているわけね」

アリスはそう言って、
菌根菌きんこんきんに招待状しょうたいじょうをわたしました。





みんなの会話に耳をそばだてていたチェシャ^{ねこ}猫が
またまた^{すがた}姿をあらわしました。

 「お、そろそろ畑の水やりの時間だな。ニシシシ」

その時です！

入り口の方からドドドドーッと

大きな音をたてて

たくさんの水が流れてきました。



 「キャー、どうしよう！」

おどろいたアリスにチェシャ^{ねこ}猫が言いました。

 「この葉っぱをボートにするんだ。

さあ、早く乗って！」

ドドドドーッと

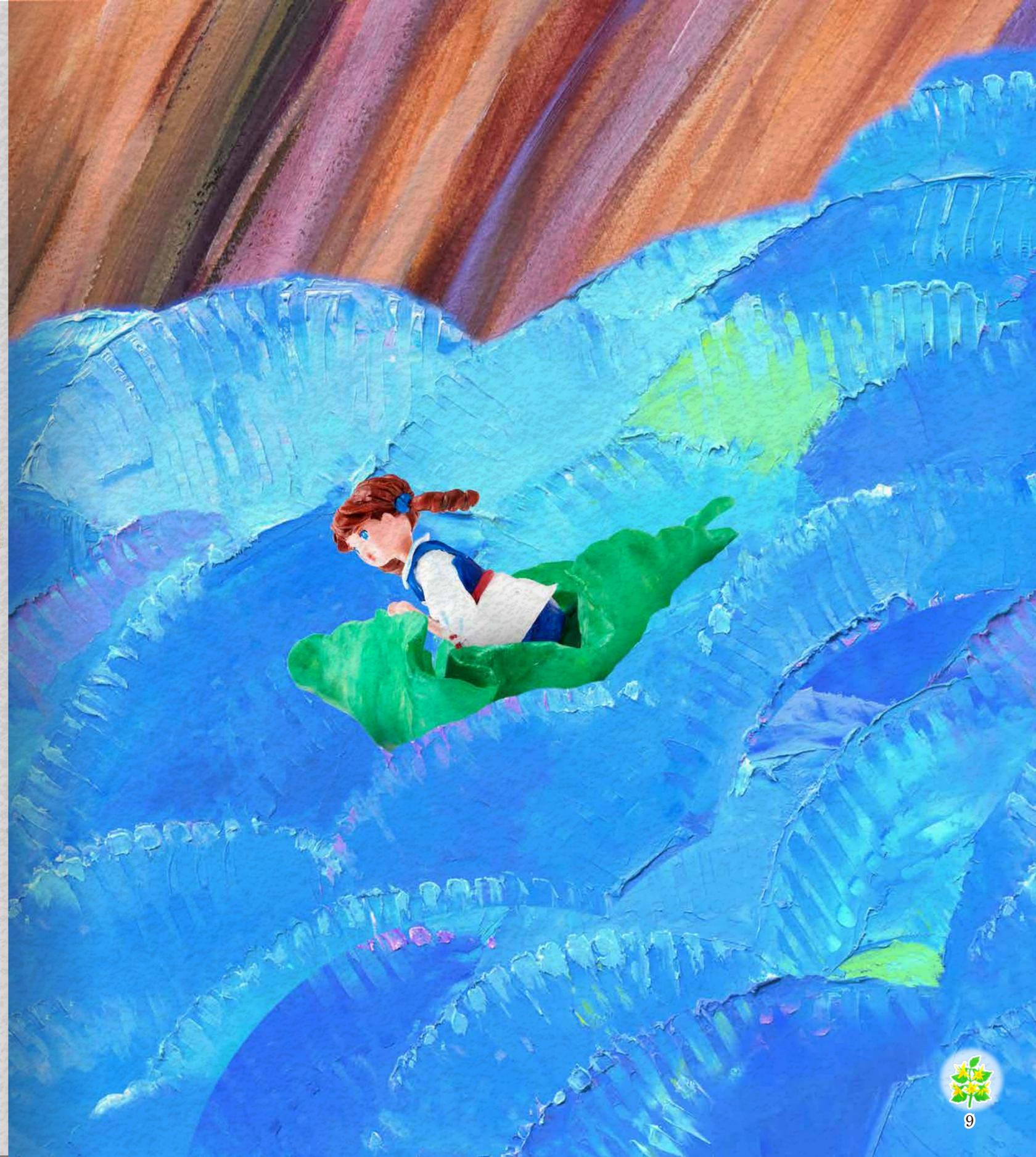
アリスを乗せた葉っぱのボートは、^{はげ}激しくゆれながら進みます。

アリスの顔にバシャッと水しぶきがかかると、

からだがムズムズしてきました。

 「ええっ～？」

なんだか わたし、大きくふくらんでいくみたいよ～」





その時、アリスの顔が
ポンッと土の中から飛び出しました。

からだを小さくしてくれた
むらさき まほう
紫の花の魔法が、水にぬれて消えたのです。
こうして、もとの大きさにもどったアリスが
土の中からようやく はいあがると・・・。

ツイピー ツイピーと小さな鳥が歌っていました。

 「シジュウカラさんも野菜と友だちなのか？
ここで何をしているのか？」

 「私たちはおしゃべりが大スキなの。
天気のことや、野菜をむしゃむしゃ食べちゃう
青虫のことを、話しているのよ。
今は収穫パーティーの歌を練習していたの。
しょうたいじょう
招待状をありがとう！ それじゃあ またあとでね！
ツイピー ツイピー ツイピー」





少し歩くと、アリスは木の上にいるフクロウを見つけました。

 「おじいさんは、野菜の友だちですか？」

 「わしは遙か昔から畑を守る存在として知られているフクロウじゃ。

私たちが生きられる地域は、
豊かな自然の証明になると言われておるのじゃ」

 「畑を守る？」

 「野菜をかじるネズミを退治しておるのじゃ。
だから野菜からも一目おかれておるのじゃ」

 「おおむかしから野菜を守ってきてくれたのね！」

とアリスはフクロウに招待状をわたしました。



さいご しょうたいじょう
「最後の招待状をとどけるためには、
ちよっとゆうき ひつよう
ちょっと勇気が必要だぞ、ニシシシシ。
なんてたって空まで行かなくてはならないんだからな」

またチェシャ猫が あらわれました。すると……。

 「それなら わたしたちに^{まが}任せてね！」

シジュウカラがたくさん集まってきました。

アリスは少しだけドキドキしましたが、

とり
鳥たちと空に^と飛び立ちました。



空には大きな友だちが待っていました。

☀️「きみがアリスちゃんだね。わたしは太陽です。
たくさんの野菜の友だちに招待状を配ってくれてありがとう。
わたしが野菜のために できることを教えてあげよう。

🎓 こうごうせい 光合成って聞いたことがあるだろう？

🌱 やさい 野菜は、おいしく育つために太陽の光をエネルギーに変えているのさ！」

そこへ雨と風もシュシューとかけつけました。

☁️「やあアリス！わたしは雨。野菜の葉っぱにふった雨水は
根っこまでとどいて、土の中の栄養をすい上げたり、
みずみずしくて おいしい野菜になるために必要なのさ。
だから、雨はとっても大事なんだよ！」

👧「そうね！おいしく元気な野菜を育てるために
太陽や雨が必要なのね。でも～風さんも野菜の友だちなの？」

すると、今度は風がビュービューと怒りながら言いました。

🌀「畑の周りの空気がずっと止まると、気温や湿度が上がって、
野菜にも土にも よくないんだよ！土が湿った状態がずっと続くと
野菜の大事な根が くさったりする場合もあるのさ。

だから太陽と雨と同じくらい 風とおりは大事なのさ！」

と少しいばって言いました。

👧「太陽も雨も風も
大きなチカラをもっているのね」

📧 こうして、アリスはすべての招待状を配り終わり ほっとしていると、

👦「おや、きみが持っているのは収穫パーティーの地図じゃないかい？」

ふり向くと男の人が立っていました。

 「ぼくはハタッケー。この畑で野菜やさいを作っているんだよ。

パーティーの招待状しょうたいじょうは、ウサギさんに配達れいたいをおねがいはしたはずなんだけどな」

 「わたしはアリス。そのあわてんぼうのウサギさんが、

招待状しょうたいじょうを落としていったから、わたしがかわりに配くばってあげたの。

野菜やさいの友だちが たくさんいるからおどろいたわ！」

 「それはどうもありがとう。

たくさんのチカラのおかげで、野菜やさいが元気においしく育つんだ」

ハタッケーは、アリスに教えてくれました。

 「いそがなきゃ いそがなきゃ！

今日は楽しい収穫しゅうかくパーティーなんだから」

あのウサギが畑の向こうからやって来ました。

 「ぼくが落とした招待状しょうたいじょうを きみが配くばってくれたんだって？

どうもありがとう。

お礼にパーティーしょうたいに招待しようよ。いいよね？ハタッケーさん！」

 「そうだね、アリスちゃんにも来てもらおう」

こうして、アリスも収穫しゅうかくパーティーしょうたいに招待されることになりました。





ウサギがニンジンラッパを 大きくふき鳴らすと、
招待状しょうたいじょうを持った野菜やさいの友だちが あちらこちらから集まってきました。

空には、太陽も 雨も 風もやってきて
みんなを やさしく見守っているようです。

トマトにニンジン、パプリカ、ナス、
色とりどりの野菜やさいを持って、ワイワイにぎやかです。

「みんなそろったかなあ！

さあ、いっしょに収穫しゅうかくのお祝いいわの歌を歌おうよー！」

パーティー会場まで楽しい行進が はじまりました。

Wonder Farm
Harvest party

「ハタッケーさん！^{やさい}野菜は、たくさんの友だちのチカラが
ぎっしりつまっていることが わかったわ！これからも大切にいただきます！」

「そうだよ、自然の持つめぐみに感謝して、^{かんしゃ}野菜をいっぱい食べて、^{やさい}元気なからだを作ろうね！」

パーティーを楽しみに待っていた^{たの}野菜の仲間たちは みんなうれしそうです。
アリスも今日起こった不思議なできごとを、^お楽しそうにふりかえりました。

さて、ここからは楽しい^{しゅうかく}収穫パーティーの
はじまりはじまり——！

いつかきみにも、
^{しょうたいじょう}招待状がとどくかも！

「不思議の畑のアリス」の仲間たち

アリス



7才の元気で好奇心旺盛な女の子。
不思議の畑の世界に舞い込み、たくさんの野菜の仲間と出会い、もっと野菜が大すきになる。

ウサギ



知らない間にアリスを畑の世界へ誘ってしまうちょっとあわてんぼうな不思議の畑への案内人。ニンジンが大好き。

ハチ



畑で野菜が実を付ける受粉を手伝っている、オシャレで品のあるお姉さん。アリスにウサギの落とした封筒が収穫パーティーへの招待状であることを教えてあげる。

チェシャ猫



神出鬼没でアリスの相談にのってくれる、おしゃべりでいたずら好きなちゃっかり屋さん。長い爪と大きな口。笑い声が個性的。

ミミズ



野菜にとって大事な団粒構造に一役かっている。物知りで礼儀正しい、仲の良いミミズの兄弟。おしゃべりでにぎやか、アーティストの顔を持つ。

菌根菌



野菜と助け合って土の中で暮らす、元気で多才な働き者さんたち。一人だと声は小さいが、みんなで固まってしゃべると、声が大きくなる。

フクロウ



経験豊かで賢いおじいさん。畑のそばで仲間を見守っている。昼間は寝ているが夜は活動的で、畑に悪さをするネズミを探している。

シジュウカラ



コミュニケーション能力が豊かで、仲間とおしゃべりしたり、歌を歌うのが大好き。アリスが招待状を配るお手伝いをする。

太陽



畑をあたたく見守り光と力を送る、野菜や生きものの力強い味方。アリスに野菜が行う光合成について優しく教える。

雨



畑と生きものに、雨水を送りとどけている。やわらかい笑顔がチャームポイント。アリスに、野菜に雨水が大切なことを教える。

風



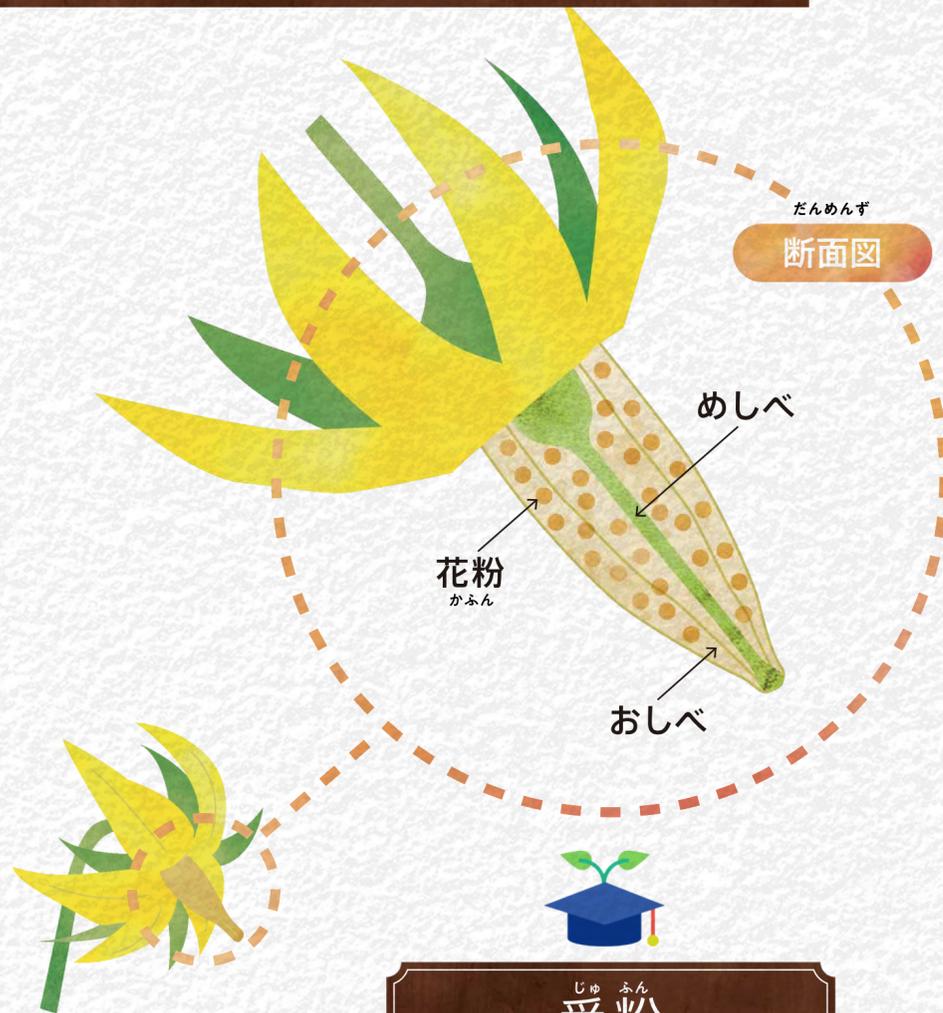
畑の周りの空気や土の状態を、いつも気にかけている。アリスに畑での風の役割を誇り高く教える。

ハタッケー



野菜を育てることが大好きな、いつもオシャレな農家さん。収穫パーティーを開こうと野菜の仲間へ招待状を配ることをウサギにお願いする。





じゅふん 受粉

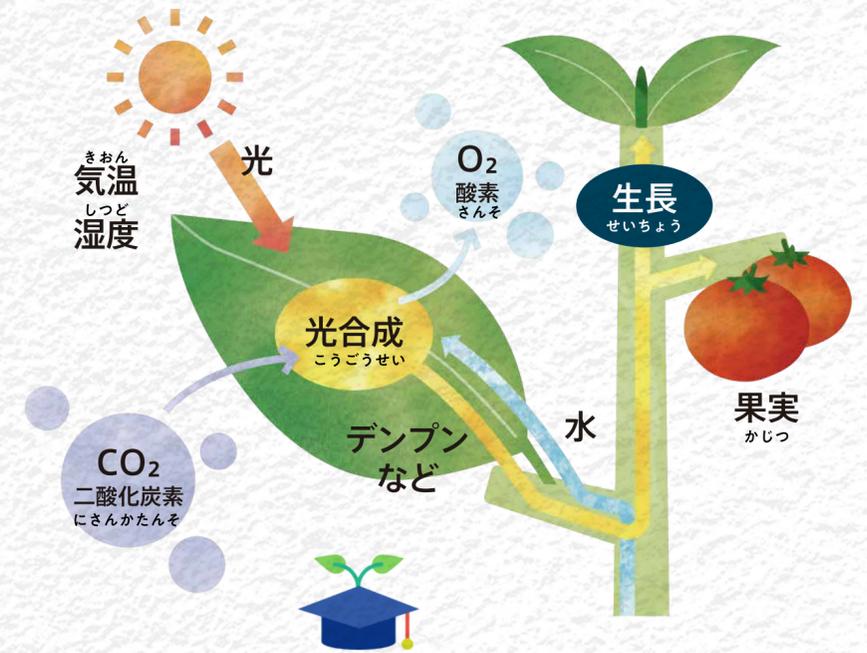
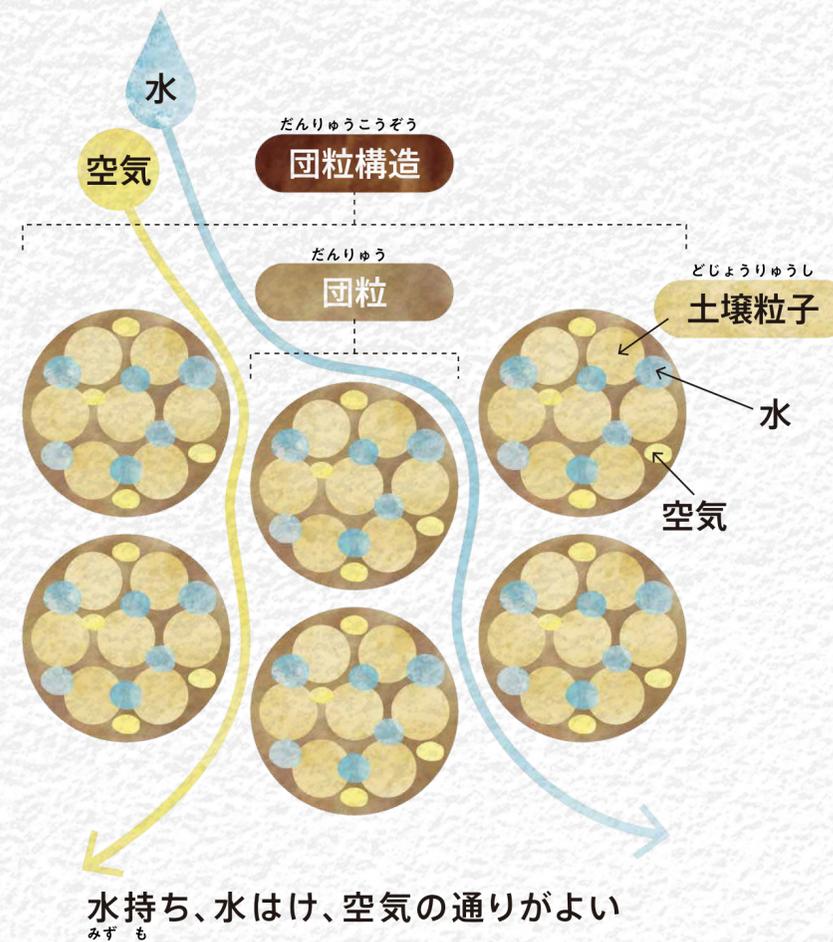
※トマトの花の場合

同じ花の中にあるおしべの花粉がめしべの先端に付くことです。
 トマトは風や虫による揺れで受粉する花(風媒花)です。花粉を集める習性を持つハチや風を利用することで、受粉し実を付けることができます。



だんりゅうこうぞう 団粒構造

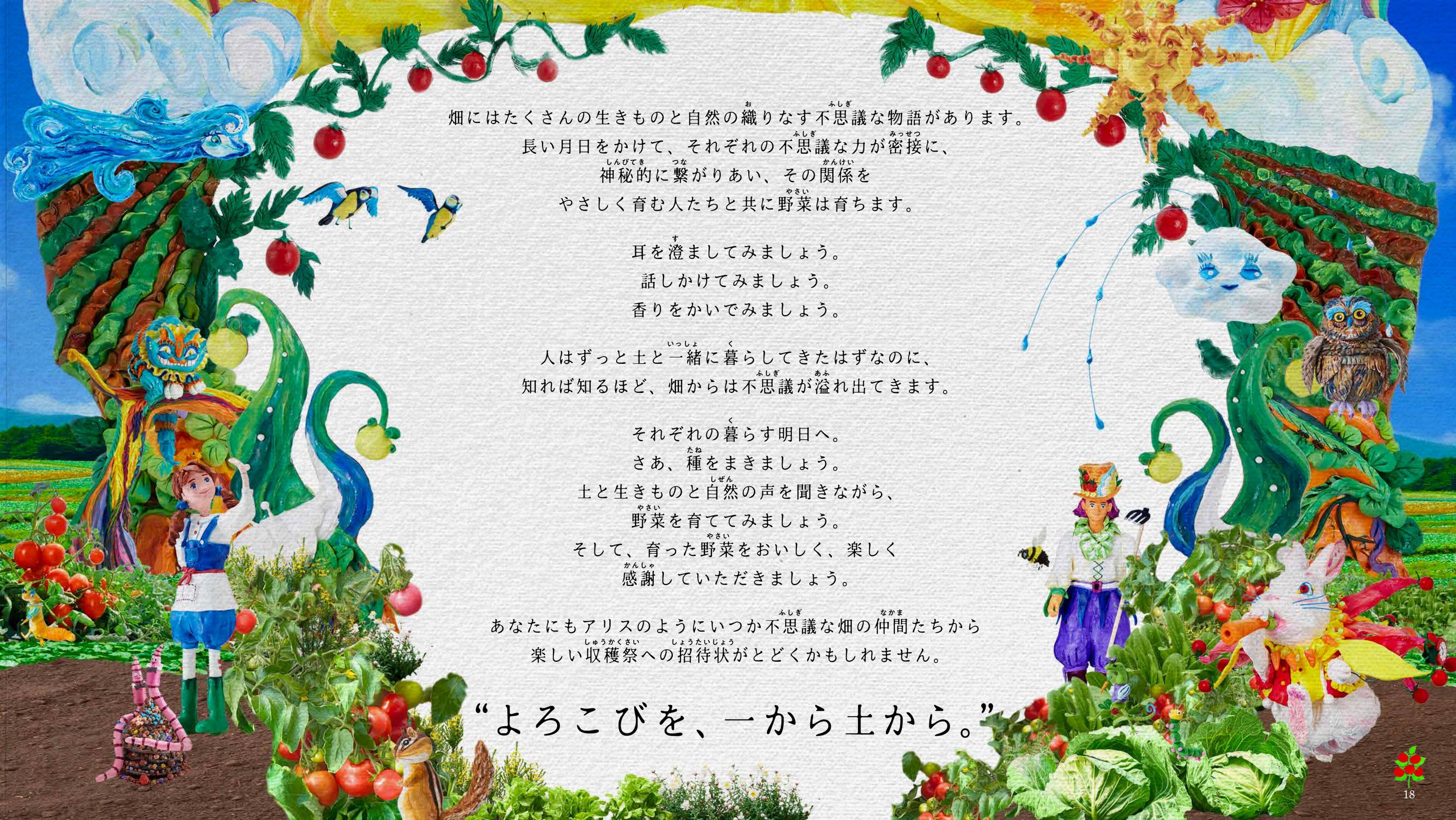
どじょうりゅうし 小粒の粒子になったものを団粒と呼びます。「団粒構造」とは団粒が集まったものを指します。これが保水性、通水性、通気性に優れた「水持ち、水はけ、空気の通りがよい土」の秘密です。ミミズはこの団粒構造を生み出す生きもののひとつで、野菜の栽培に適した土壌を作っています。



こうごうせい 光合成

光合成は、植物が太陽の光を利用して、水と二酸化炭素から酸素とデンプンなどを作り出すはたらきのことです。
 光合成で作り出されるデンプンなどは、植物である野菜が生長したり、実を付けるために必要な栄養になります。そのため、野菜には太陽の光が欠かせません。





畑にはたくさんの生きものと自然の織りなす不思議な物語があります。
長い月日をかけて、それぞれの不思議な力が密接に、
神秘的に繋がりあい、その関係を
やさしく育む人たちと共に野菜は育ちます。

耳を澄ましてみましよう。
話しかけてみましよう。
香りをかいでみましよう。

人はずっと土と一緒に暮らしてきたはずなのに、
知れば知るほど、畑からは不思議が溢れ出てきます。

それぞれの暮らす明日へ。
さあ、種をまきましよう。
土と生きものと自然の声を聞きながら、
野菜を育ててみましよう。
そして、育った野菜をおいしく、楽しく
感謝していただきましよう。

あなたにもアリスのようにいつか不思議な畑の仲間たちから
楽しい収穫祭への招待状がとどくかもしれません。

“よろこびを、一から土から。”

